

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業		事業計画期間	平成28年度～平成32年度
事業実施地区名 (都道府県名)	(たかはしがわりゅう) 高梁川下流森林計画区 (岡山県)		事業実施主体	近畿中国森林管理局 岡山森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、岡山県新見市、高梁市を含む6市1町に所在する約9,600haの国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区は、岡山県西部の中国山地沿いを中心に位置し、国有林野の85%が水源かん養保安林に指定され、下流域への水源涵養機能や国土保全機能の高度発揮に重要な役割を果たしているとともに、地位・地況に恵まれ、優良な木材生産に適していることから、地域林業の中核としての期待を担っている。また、本計画区の南部地域には小規模団地が倉敷市などの人口集中地域に点在しており、保健休養の場として多くの人々に利用されている。</p> <p>一方、本計画区における人工林約7,300haについては、間伐等の施業が必要なⅢ～ⅩⅡ齢級林分が大半を占めており、今後、これら人工林から生産される国産材の安定的供給への期待も高まっている。</p> <p>このことから、本事業においては、植栽等の更新作業や間伐等の保育作業を実施し、地球温暖化防止をはじめとする森林の有する公益的機能の維持促進を図るとともに、効果的かつ効率的な森林整備の基盤となる林道等の路網整備を実施するものである。</p>			
	・主な事業内容	森林整備	更新面積 保育面積	421(ha) 3,940(ha)
		路網整備	開設延長	4.2(km)
	・総事業費	1,018,211(千円)		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	12,474,601(千円)		
	総 費 用 (C)	1,364,886(千円)		
	分析結果 (B / C)	9.14		
森林管理局事業評価技術検討会の意見	費用対効果分析の結果及び定性的な評価結果を総合的に検討した結果、事業の実施は妥当である。			
評価結果	<p>・必要性： 地球温暖化防止対策や国土保全、水源涵養及び保健休養等の公益的機能の発揮等が求められている地域であり、事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性： 費用対効果分析の結果から、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、地域の特性を踏まえた計画的な森林整備により、森林の有する公益的機能の発揮が十分図られることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規地区採択に当たっての審査項目(チェックリスト)、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能(特に水源涵養)に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>			

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全森林整備事業

都道府県名：岡山

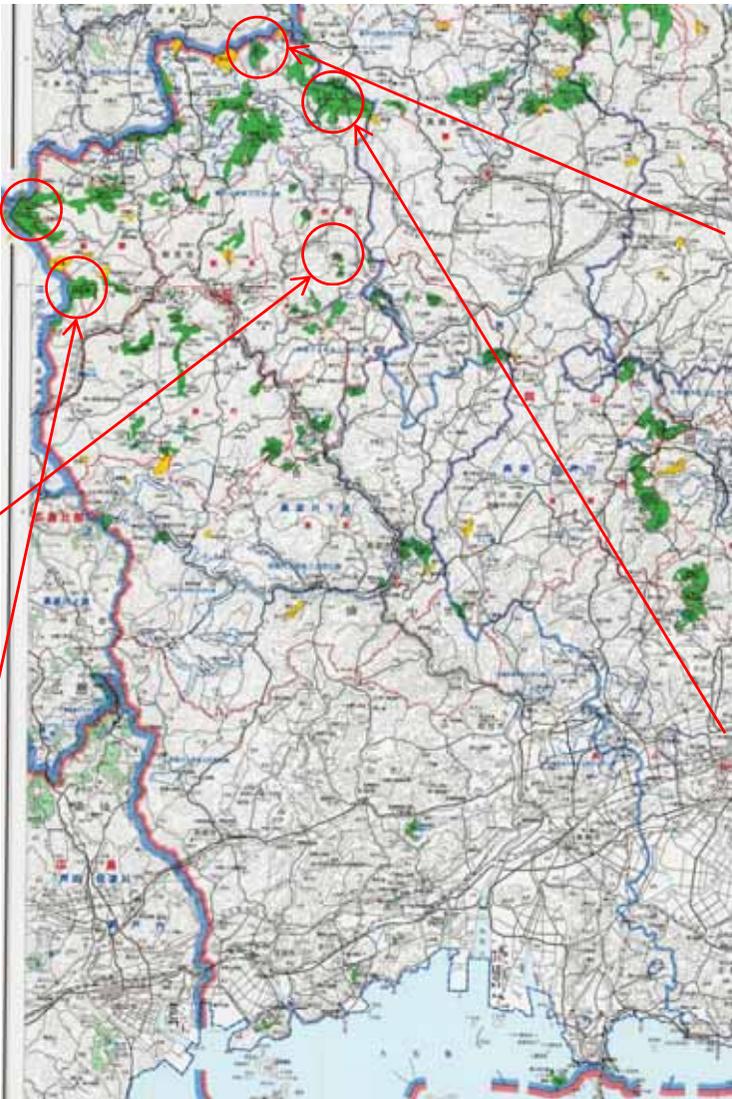
施行箇所：高梁川下流森林計画区

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	2,226,522	
	流域貯水便益	1,154,607	
	水質浄化便益	2,813,337	
山地保全便益	土砂流出防止便益	4,167,319	
環境保全便益	炭素固定便益	1,046,959	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	59,277	
	木材利用増進便益	797	
	木材生産確保・増進便益	842,398	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	62	
	森林管理等経費縮減便益	8,125	
	森林整備促進便益	155,198	
総 便 益 (B)		12,474,601	
総 費 用 (C)		1,364,886	千円
費用便益比	$B \div C = \frac{12,474,601}{1,364,886} = 9.14$		

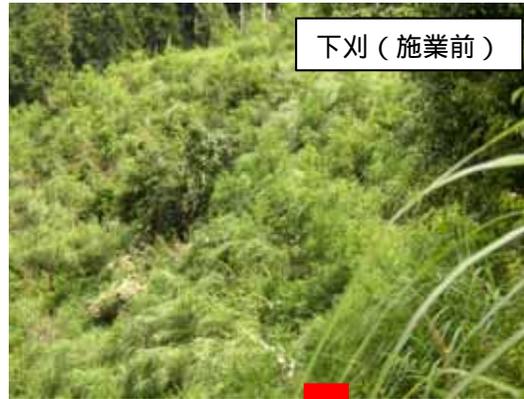
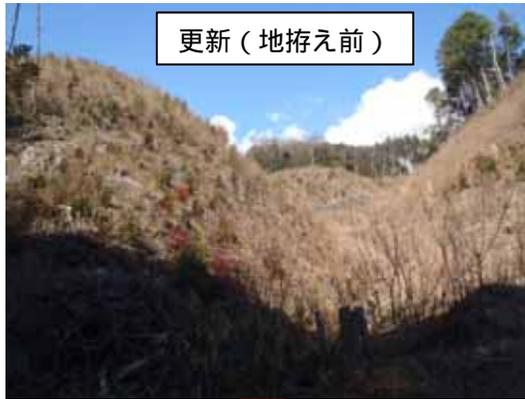
事業概要図

森林環境保全整備事業 高梁川下流森林計画区（岡山県）



森林整備（下刈作業） 三光山国有林

高梁川下流森林計画区 森林整備（造林作業イメージ）



間伐（施業後）

高梁川下流森林計画区 路網整備箇所 位置図

